

巻頭言

「ネット理事」

建入ひとみ（上越市飯田出身）

蓮池にかかる橋から美しい妙高山を仰ぎ見ていた高校時代。あれから三十年以上も時が流れた。帰省の際には、時間がかかっても景色の良い信越線を選ぶ。妙高山を見たいからだ。モーセの十戒で有名な「シナイ山」は、確かヘブライ語で「聖なる山」の意味。これが、日本語では「妙高山」になるという。

三十代前半で南フランスに留学し、時間をみつけてはキリストや仏陀の「聖地」を歩いた。私は無宗教だが、人間の宗教感を個人的に研究している。

おもしろいことにフランスには、聖母マリアが出現した奇跡の場所が多い。スペイン寄りの渓谷に位置するルルドという町は、マリア様の出現で「聖なる水」が湧きでるカソリックの巡礼地だ。ここには、なんと敷地内に病院が併設されている。難病の人や肢体不自由な人々が、世界から担架や車いすでやってくる。その湧き水を飲むことはも

ちろんのこと、沐浴を続け療養することで科学的に証明できない「奇跡」が起きることがある。

重度で車イスの患者が、ある日プールでいきなり泳げるようになる・・・西洋医学の医者が集まり症状やカルテ等を分析して、合意すれば「奇跡第〇〇号」と認定される。

そのルルドのほど近くに、十二世紀まで輪廻転生を説く原始キリスト教の一派「カタリ派」が存在していた。ローマ・カソリックから異端とされ十字軍を使って徹底的に弾圧、欧州最初の大虐殺となった。仏陀もキリストも真理については同じ事を説いているにすぎない。権力やお金を握りたがる人々はヒエラルキーをつくり人の支配を始める。「真実が曲解されて行くのが世の常だ」というあきらめや、思い込み、他力本願では、これからの時代に生き抜いてはいけない。

最近になって、米国では9・11事件が、米国自ら仕掛けた事件だと思っている人が60%以上

にもなった。石油やサブプライム問題に、米国民はやっと「開眼」したのではないか。私は、政治的なコントロールや諸問題には、非常に直観が働きのロジックな思考になる。だからこそ、経営コンサルタントとして活躍できたのだろう。

国連は二〇〇九年を「世界天文年」と定めた。ガリレオが四センチ口径の望遠鏡を星空に向けてから四百年。大好きな天の川は、私たちの太陽系が属する巨大な天の川銀河と解明された。その隅っこに、小さな地球が存在している。人類が宇宙ステーションで活躍しても、我々が知っている宇宙の情報はたったの四%で脳の解明と同じ程度なのだ。

「現実に見えるものがすべて」という思い込みで作り上げてきた世界経済は五里霧中。これまで同様の分析や評価では、何も解決できない。この時代に人類は何を学ぶのか。まさに必要なのは、一人ひとりの「慧眼の力」である。

